

◎祭神について

神社を信仰するに当って、神社名は知っていても、その神社の祭神を知っている人は少ない。そこで祭神について略記し参考に供したいと思う。

国常立命 (クニトコタチノミコト)

古事記には国常立神となっている。日本書紀では全ての神の冒頭に出てくる神である。天地のはじめの国づくりの神で、国の確立をあらわす神名であるとされ土地の成立の神である。

伊邪那岐尊 (イザナギノミコト)

伊邪那美尊 (イザナミノミコト)

日本書紀では、伊弉諾尊、伊弉册尊と記されている。

神代七代の神の最後の神で、お二方とも万物生成の神である。また天照大神、月読命、建速須佐男命の三方をお産みになった神である。

天照大神 (アマテラスオオミカミ)

黄泉 (ヨミ) の国から帰ってこられた伊邪那岐の命が、身狭 (ミソギ) をされたときお生まれになった神で、天を治める有名な神である。

建速須佐男命 (タケハヤスサノオノミコト)

古事記では、須佐男命、建速須佐男命、速須佐男命などとなっているが、別に表蓋鳴尊となっている神社、書物もある。

天照大神を困らせて乱暴し、天の岩戸の中に引きこもるようにされてしまったという物語で知られている神で、高天原系では暴風の神とされている。出雲の国肥の河上でヤマタのオロチを退治した話で有名である。

月夜見命 (ツキヨミノミコト)

日本書紀では月読命となっている。天照大神、須佐男命とごきょうだいで、夜の世界を治める神である。

天児屋根命 (アメノコヤネノミコト)

天の岩戸開きのとき、布刀玉命とともに占いをしたり、岩戸前で祝詞 (ノリト) をあげたりした神で、占いや祭りの神である。

木花開耶姫命 (コノハノサクヤヒメノミコト)

古事記には、木花佐久夜毘売と記されている。大変美人の神で、浅間を名乗る神社はみなこの神を祀っている。天孫降臨で有名な 日子 番 運 運 芸 命 の 妻 と な ら れ た 神 で 、 富 士 山 の 守 護 神 で あ る 。

彦火火出見命 (ヒコホホデミノミコト)

古事記では、天日高日子穗穗出見命とされ、彦火火出見命は日本書紀流である。有名な山幸、海幸の中で、火遠理命として現われてくる神で山佐知毘古のことである。またの名を火折尊といい、母は木花開耶姫命で、海佐知毘古の弟にあたる。

山幸、豊作の神である。

豊受姫命 (トヨウケヒメノミコト)

伊勢神宮の祭神である。

古事記には、豊宇氣毘売神となっている。和久産巢日の神の子で、生産の神である。

保食命 (ウケモチノミコト)
その名のとおり食生活の神である。月夜見命に殺されるという神話がある。

金山彦命 (カナヤマヒコノミコト)

金山姫命 (カナヤマヒメノミコト)

古事記では、金山毘古神、金山毘売神となっている。

火を防ぐ力の神であり、鍛冶工、鉄工業などに利益を授ける神である。

大山祇命 (オオヤマツミノカミ)

古事記では、大山津見神となっている。山の神で、木花開耶命の父でもある。

正哉吾勝勝速日天之忍穗耳命（マサカアカツカチハヤヒアマノオシホミミノミコト）

天津穗日命（アマツホヒノミコト）

天津彦根命（アマツヒコネノミコト）

熊野久須毘命（クマノクスビノミコト）

活津彦根命（イキツヒコネノミコト）

以上五神は男子

田心姫命（タゴリヒメノミコト）

瑞津姫命（タキツヒメノミコト）

市杵嶋姫命（イチキシマヒメノミコト）

以上三神は女子

以上の神々は水田開拓の神としてまつたものと考えられる。

五人の男の神々は天照大神のまが玉から、三人の女の神々は須佐男命の剣からそれぞれお生まれになったという神話がある。

天姥幡姫命（アマノタエハタヒメノミコト）

織物の神として郡内にはここ一社であるが、最近になって上夏狩に分社を奉遷した。

機械織のなかった時代は織女の信仰を集め機神様として名高かった。

南都留郷土誌には、天棚機姫を祀るとある。

また、南鶴神社誌には、万幡千々姫命、あるいは大宮姫命とも称し、天兒屋根命の妻神であるとされている。

大己貴命（大國主命の別名）（オオアナムチノミコト）

南鶴神社誌によると大國主命の別名となっている。古事記の中には見当たらない。

大國主命は、大物主命、大穴弁通神、葦原色許男神、八千矛神、宇都志國玉神というようにいくつもの別名をもっておられた。

イナバの白兔の話は有名である。国土開発の神である。大黒様として福の神である。
少彦名命（スクナヒコナノミコト）

古事記では少名毘古那神とされている。大國主命とご一緒に国造りされた国土開発の神である。

神祖熊野大神櫛御氣野命（カムロギクマノオオカミクシメケヌノミコト）

島根県熊野神社の祭神で、須佐男命のことである。

事代主神（コトシロヌシノカミ）

羽根子の三社神社の祭神のひと方で、神殿には、古登代主命と記してある。古事記には事代主神、八重言代主神となっていて、大國主命の御子である。

靈事託宣をつかさどる神で、建御名方命の兄にあたる神である。またエビスさまで福の神として親しまれている。

建御名方命（タテミナカタノミコト）

八坂刀売命（ヤサカトメノミコト）

建御名方命は大國主命の子に当り、八坂刀売命はその妻神であるという。建御名方命が地方を治める神となって日本国は天皇が治めることとなったのである。

農耕、開墾の神として農家に信仰が厚く、民を治めて徳の高い神として尊敬されている。

稚産靈命（ワカムスビノミコト）

「この神の頭に蚕と桑と生り」と日本書紀にあって養蚕の神である。

級長津彦命（シナツヒコノミコト）

級長津姫命（シナツヒメノミコト）

級長津彦命は級長津彦命の妻神であると思われるが古事記等に見当たらない。風神である。

大見土命（オオミツチノミコト）

別名を、火之迦具土命、火之夜芸速男神、火炫毘古神、軻遇突智神ともいっている。伊弉諾、伊弉册二神の子で、伊弉册はこの子を産んだために焼け死ぬのである。焼け死ぬまぎわに火を消す神として、金山彦、金山姫命を生まれた、という神話がある。母神の体を焼いたということについては、古代日本人が農作物を焼いた風習の反映であるという説と、わが国が火山国であることから思いついたという説、その他の説がある。

表筒男命(ウワツツオノミコト)

中筒男命(ナカツツオノミコト)

底筒男命(ソコツツオノミコト)

伊邪那岐命が黄泉の国から逃れてきて「身褌」をされたとき、川の中の水底で体を洗うときあらわれたのが底筒男命で、中程で洗ったときあらわれたのが中筒男命、水面で洗ったときあらわれたのが表筒男命である。ともに住吉神社の祭神とされ、けがれをきよめる神である。

磐筒男命(イワツツオノミコト)

磐筒姫命(イワツツヒメノミコト)

ともに岩石の神であるとされている。

八意思兼命

日本書紀に「思兼神者有思慮之智亦名入意思兼命」とあり、天照大神を天の岩戸から出すに当り、いろいろと考えをなされた神である。

稻魂命

京都伏見稻荷社の祭神である。

高靈命

閻靈命

高靈命は山上の龍神であり、閻靈命は溪谷の龍神であって、ともに降雨をつかさどる水徳の神である。

日本武尊(ヤマトタケルノミコト)

古事記では倭建命とあり、景行天皇の皇子で、軍神である。

聖徳太子(シヨウトクタイシ)

用明天皇の第二皇子(五七三〜六二一)である。

仏教信興に力を尽され、十七条の憲法をつくられ、更に大化の改新を行ない善政をおこなわれた徳の高いお方であった。

応神天天皇

別名菅田別命と称し、父は仲哀天皇、母は神功皇后で、弓矢の神、戦さの神である。

和銅五年(七一二年)豊前の宇佐に祀られてから八幡大神というようになった。

菅原道真公

文書道の家系に生まれ(八四五〜九〇三)、小さいときから学問を好まれた。特に詩にすぐれ、また書道においても、空海、道風と共に並び称せられていた。また武道に通じ、文武諸芸の神、学問の神として広く信仰されている。

家康公

徳川家康のことである。羽根子の三社神社の一方として祀られているが、神代の頃の祭神が多い中で、歴史上の人物が祀られてあることが珍しい。